

2024年

6月5日〔水〕

— 9月1日〔日〕

企画展

# 池田焼

— 幻にしないために —



織部風吊り燈籠



鉄錆色筆目花器

開館時間 午前9時—午後5時

休館日 月曜日・火曜日（休・祝日は開館）

会場 当館小展示室

入館無料

※8月25日（日）

午前10時  
午後2時より

学芸員による展示解説（約30分）

企画展

# 池田焼 一幻にしないために一

明治時代の半ば以降、大阪では紡績などの近代産業が勢いを増し、池田でも酒造や植木といった江戸時代から続く産業以外にも、さまざまな経済活動が盛んになっていきました。大正時代の池田では、商業的な活動が中心となりましたが、阪急電鉄の車両修理工場や製薬・化学薬品工場、製氷工場など、町の変化をうかがわせるような新しい製造業もあらわれていました。

そのような時代背景の中、明治末年に陶器商を始めたのが阪戸梅吉さかとうめきちでした。梅吉は京都や四日市から職人を集めて古江に製陶工場を開き、食器や花器などの製造に乗り出しました。それらは大正年間に「池田焼」もしくは「呉服焼」という名称で売り出され、国内の博覧会での入賞や皇室への献上など力を見せましたが、経営は振るわず、わずか10年ほどで幕を閉じることになりました。

本企画展を通じて、今ではその存在を知る人も少なくなってしまう大正時代の池田焼について、少しでも多くの方がたに知っていただければ幸いです。



刷毛目小鍋



外錆牡丹絵角鉢



焼締土瓶



熨斗目徳利



松絵蓋物



土器花瓶献上の通知 (大正8年)



関西勸業共進会褒賞之証 (大正5年)

## 池田市立歴史民俗資料館

同時開催 常設展 目で見る池田の歴史

旧石器時代から現代にいたる池田の歴史を点描します。

池田茶白山古墳、池田城跡などからの出土物をはじめ、酒造で栄えた近世から、鉄道が開通した近代そして現代へと続く池田の歴史に関する資料を展示。

また、豊かな文化を象徴する美術資料などもご覧いただけます。

〒563-0029 大阪府池田市五月丘 1-10-12

TEL/FAX 072-751-3019

<https://www.city.ikeda.osaka.jp/soshiki/kyoikuiinkai/rekishi/index.html>

アクセス ※駐車場有 (無料)

電車 ■ 阪急宝塚線「池田」駅下車 徒歩 15分

バス ■ 阪急バス「池田」③のりばから「辻ヶ池公園前」

下車 徒歩 5分 / ④のりばから「五月丘」下車 徒歩 8分

